



Innovation for Tomorrow

ダイハツ工業株式会社 取締役社長

箕浦 輝幸

ダイハツ工業は、2007年3月に創立100周年を迎えることができました。これもひとえに、これまでダイハツ車をご愛顧いただいている世界のお客様、株主の皆様、お取先様、業界関係の皆様のお陰と心より感謝申し上げます。

ダイハツ工業は1907年(明治40年)3月に内燃機関の国産化をめざした、今日で言う産学協同のベンチャー企業、「発動機製造株式会社」として設立されました。

それから今日までの当社の歩みの中で忘れてならない商品に1957年(昭和32年)発売の軽三輪車「ミゼット」があります。当時大型化しつつあった三輪トラック、運搬能力に限界があったオートバイとの間に生まれてきた小口輸送の潜在需要に着目して開発されました。

「街のヘリコプター」の愛称で親しまれたこの車は、当時としては画期的なヒット商品となり、国内はもとよりア

ジアをはじめ世界各地で活躍いたしました。昭和30年代の東京を描いて多くの賞を獲得した映画「三丁目の夕日」の中でも、ミゼットが時代を象徴する車として、主人公一家のよきパートナーとして活躍する姿が描かれていました。

現在のダイハツは軽自動車をはじめとするスモールカーの専門メーカーとして、国内およびアジアを中軸とした事業を展開いたしておりますが、50年前のミゼット発売は、今日のダイハツの進むべき方向性が明確に示された大きな節目だったと考えております。市場とおお客様のニーズを的確に掴んだミゼットの成功は、今日お客様からご好評をいただいている「ムーヴ」「ミラ」「タント」の開発にも受け継がれていると感じております。

拡大を続ける世界のモータリゼーションを考えたとき、スモールカーの小ささが持つ優れた資質である「環境負荷の小ささ」「省資源」「低価格」に対する期待は年々高まっていることは言うまでもありません。

先人の志を受け継ぎ、世界中のお客様に喜んでいただける商品をお届けすることが、われわれの義務であり、喜びであることを改めて噛み締めている次第です。

しかし現在の自動車産業を取り巻く状況は厳しく、地球規模の深刻化する温暖化問題やBRICsなどの新興市場での熾烈な競争が続いており、当社も100周年の歴史に安住することはできません。



ミゼットDKA型

次の100年を生き残るためには、スリムで強靱な企業体質への徹底した改革と、真のグローバル企業への成長が欠かせません。そのために自らがInnovation(変革)していくこそが、成長・発展の源泉であると考え、100周年を契機に、新たなグループスローガン「Innovation for Tomorrow」を制定致しました。

「Innovation for Tomorrow」を単なる意思表示で終わらせるのではなく、ダイハツグループ全体の企業体質を“変革”するためには、ダイハツグループの一人ひとりが変革意識を持つことが重要です。そのために「現地現物」を徹底していきたいと私は考えております。問題の現場に自ら赴き、身をもって解決にあたる。その行動をスピードをもって対応することが、グループ全体を成長させることにつながると確信しております。

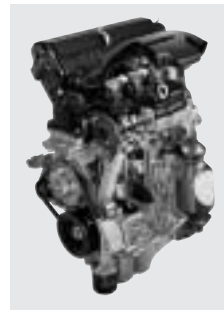
生産現場、商品開発の現場、さらには環境問題など大きな問題に対しても、現場を知ることで課題が鮮明に見えてくるのです。そしてその課題の具体的な解決策を見い出せるはずです。するとその後新たな課題が見えてくるものなのです。この工程を常に繰り返すことでInnovation(変革)が続くことになり、強靱な企業体質が構築できるのだと確信しております。

ダイハツのこれからの100年を考えれば、あらゆるところでInnovationしていかなければ生き残る資格がないと思っています。環境問題のインパクトは、自動車産業の将来を左右するだけでなく人類の未来にも関わる大きなものです。この環境問題をクリアする技術を持たないと市場からの退場を宣告されることになります。

当社が得意とする軽自動車をはじめとするスモール



ミラ



KFエンジン



CVT

カーは、環境負荷の少なさという点では有利な資質のクルマといえますが、資質だけでは生き残ることができない時代に突入したと考えています。まさにInnovationが必要で、常識を打ち破るような新しい技術を自分たちで創造し、カタチにすることが重要なのです。

日本独特の制度である「軽自動車」は、規格という制約があります。低価格で高い経済性を保ちながら、いかに広く、いかに使いやすい空間、性能を創造できるか、各社の開発者が競い合っています。そこから生まれる、優れた軽自動車の発想と技術は、日本のみならずグローバルでも、環境負荷の少ない健全なモータリゼーションの発展に貢献できると確信しています。

環境負荷を低減する技術につきましては、触媒貴金属の使用量を大幅に低減する「スーパーインテリジェント触媒」、コンパクトで軽量の「軽自動車用3気筒エンジンKF型」、世界初のインプットリダクション方式3軸ギヤトレーン構造を採用した「CVT」等、既存のパワートレーンでの省資源、CO₂の削減に取り組んでまいりました。

同時に、新たなクリーンエネルギーにつきましても多面的な研究開発を進めております。そのひとつとして、9月中旬には貴金属を使用せず省資源、低コスト、そして燃料の安全かつ容易な取り扱いが可能な、新燃料電池の基礎技術を開発いたしました。

私どもは100年という長い歴史の中で諸先輩が培ってきた技術やスモールカーづくりのノウハウを礎としながらも、過去にとらわれることなく、Innovationであらゆる課題に挑戦してまいります。そして世界に誇れる独創的な技術を開発し、軽自動車を中心としたスモールカーで世界に貢献できるよう努力を重ねていくことを決意いたしました。

皆様方の一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。